Trinity

キズナエピソード\_大鳥丹\_04

------------------------------------------

//ADV形式開始

//背景:とびお自室（朝）

［丹］

「……ん……ここは……？」

［丹］

「……あ……とびおくんの部屋。

まだ寝てる……ふふ……」

//自覚は無いが愛しそうに微笑む

［丹］

「昨日……あ！　……はぁぁ～……。

なんであんな話を……！」

//蘇ってきた記憶と恥ずかしさをかみ殺している

［丹］

「どうして私……とびおくんに……」

［とびお］

「……んん？」

［丹］

「っ！」

//ビックリして息を呑む

［とびお］

「……ふぁ～……丹……おはよう」

［丹］

「お、おはようございます

昨日はすみません、いつの間にか寝てしまったようで……」

［とびお］

「ん、いや、疲れてたんだろ。

……朝飯食うか？」

［丹］

「え、ええ、いただきます」

［とびお］

「よし、じゃあ向こうで少し待っててくれ」

//暗転

//背景:とびお家リビング(朝)

［とびお］

何かずっと見られている気がする……。

［とびお］

「…………」

［丹］

「…………はぁぁ～……」

［とびお］

目が合うと、

額に手を当てて、大きなため息をつかれた……。

［とびお］

「朝飯できたぞ」

［丹］

「まあ、ありがとうございます」

［とびお］

「ベーコンエッグに食パンだけどな」

［丹］

「普通の朝ごはんですね……」

［とびお］

「普通で悪かったな」

［丹］

「あ、いえ、そういう意味ではなく……

とびおくん、こういうお料理できるんですね」

［とびお］

「簡単なものしか作れないけどな。

冷めないうちに食べよう」

［丹］

「ええ……いただきます……」

［とびお］

「…………昨日さ」

［丹］

「ゴホッ！　ゴホッ！」

［とびお］

「だ、大丈夫か？」

［丹］

「……えぇ、大丈夫です。

…………昨日、なんですか？」

［とびお］

「いや、丹があんな話するとは

思わなかったな～って」

［丹］

「！

……朝起きて聞いてたんじゃ……」

//とびおに聞こえないささやき声

［とびお］

「え？」

［丹］

「私も、自分があそこまでお話するとは

思っていませんでした……」

//忸怩たる思い

［とびお］

「……昨日言えなかったんだけどさ……

今日は家に帰れよ」

［丹］

「え!?　……。

あ……そうですよね……。

やはり、ご迷惑でしたよね……」

［とびお］

「違う、そういう事じゃない。家族の問題だから、

俺には丹がどれだけの想いを抱えていたのかは

想像しか出来ないけど……」

［とびお］

「それでも、痛くても優しさが向けられてるなら、

優しさで返すべきじゃないのか？」

［とびお］

「親御さんも、丹達に複雑な想いを抱いているから

笑顔が無理してる感じになるんだろうけど……」

［とびお］

「それでも、毎年祝ってくれるんだろ？

丹達が生まれてきてくれて良かったって

祝ってくれるんだろ？」

［とびお］

「痛くても、ぎこちなくなっても、

『ありがとう』で返すべきだと、俺は思う

いつまでも逃げてたら、丹の家族はずっとそのままだぞ？」

［丹］

「…………ゎょ……」

［とびお］

「ん？」

［丹］

「……余計なお世話よ……！」

［丹］

「そんなこと！

わざわざあなたに言われなくてもわかってる！

正論振りかざして、いい気にならないでよ！！」

［とびお］

「丹……」

［丹］

「ずっと、さんざん、親不孝なことしてきたのに、

今さらあなたみたいな他人に

そんな風に言われて、いい子になれるわけないじゃない！」

［丹］

「一晩泊めたくらいで、

都合よく彼氏面してこないでよっ!!」

［とびお］

「……」

［丹］

「……私、帰ります……

……ご馳走様」

//4話終了